

平成 30 年度 2018年11月17日・18日

# 学生によるオレンジリボン運動

## 流通科学大学 実施報告書



**実施主体** 加藤曜子ゼミ

**実施内容** 展示及び、親子を対象にした遊び企画

### ①事前に取り組んだ内容

ゼミ活動の一環として、3年生は、4チームで子どもに関する課題として「性教育の取り組み」「子ども食堂の意義」「父親になること」「非行の発生要因」について前期に学習しまとめて展示。2年生は3チームで「オレンジリボンについて」「子どもの生活する権利」「遊びの権利」について4回の検討会を実施したうえで、まとめて展示。大学祭は11月17日、18日であったが、前日に、展示及び、遊び場の設定。折り紙、塗り絵コーナー、指相撲コーナー、カードづくりコーナーを設けた。教員2名も支援に入った。

### 実施期間に取り組んだ具体的内容

「子どもの権利」をベースに、子どもを取り巻く現状について展示を継続している。父兄が関心をもって、展示を見ている間、学生が来室した子どもたちと遊ぶ。また、親子で塗り絵に取り組む姿もみられた。また児童虐待防止協会提供のシールや、カード作りを楽しんでいただけた。親支援として元児童養護施設長も参加していただけた。

### ③オレンジリボン運動を終えて…

ゼミ生の中国からの留学生や、ベトナムからの留学生がボランティアとして参加。遊びを通じて交流が始まっている。ゼミ生ボランティア・教員総勢26名。学生にとって子どもと日頃接することが少ないため、よい機会となっている。

オレンジリボンは知っていたが、「何故オレンジ色」なのかわかったと言ってくださるお母さんがおられた。運動を通じ、地域に根付いた交流の場となっている。

